



日本骨髓バンクの現状（平成 24 年 1 月末現在）

	12 月	1 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,853	3,819	403,391	530,885
患者登録者数	228	227	2,966	34,869
移植例数	96	108	-	13,821

- 20 歳未満のドナー登録者数
1 月 250 人
合計 16,824 人（17 年 3 月～）
- 51 歳以上のドナー登録者数
1 月新規 190 人
延長 320 人
合計 26,075 人

■1 月の区分別ドナー登録者数： 献血ルーム／1,600 人、献血併行型集団登録会／2,090 人、集団登録会／63 人、その他／66 人 注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 公益財団法人への移行認定について

昨年 10 月の本紙でお知らせしたとおり、当財団は昨年 9 月 26 日に内閣府公益認定等委員会に、公益財団法人の認定申請を行いました。公益認定等委員会で審査の結果、本年 1 月 20 日付にて、「認定の基準に適合すると認めるのが相当である」と内閣総理大臣あてに答申が発出されました。これにより、本年 4 月 1 日に移行登記を行い、当財団は公益財団法人として新たなスタートを切ることになります。

昨年、租税特別措置法が改正され、個人が公益財団法人に寄附をした場合に、従来の所得控除に加えて税額控除が適用されることとなり、個人の寄附者は 2 つの控除制度のうち、より有利な方法を選択できるようになりました。ただし、当財団が内閣府から認可を受けた日以降に受け入れた寄附金から、個人の寄附者が税額控除を適用できることとなりますので、ご注意ください。

また、公益財団法人への移行に伴い、今年度の決算から「新・新会計基準」を適用します。この結果、特別会計の患者負担金等支援基金は、特別会計が廃止されるのに伴い、指定正味財産として一般正味財産と区分して管理されます。

2 非血縁者間末梢血幹細胞移植の実施について（第 2 例目）

本年 1 月に第 2 例目の非血縁者間末梢血幹細胞移植（PBSCT）が実施されました。昨年 3 月に実施した第 1 例目のドナーの方は PBSCT の当初のドナー条件である「骨髓提供経験者」でしたが、第 2 例目のドナーの方は昨年 10 月に当該条件を解除した後のコーディネートで提供に至った方で、骨髓提供経験はありません。当該条件を解除してから、PBSCT 対象となるドナーのコーディネート件数が増えつつあり、今後 PBSCT 件数の増加が見込まれます。

次年度から、PBSCT 件数について、移植例数の内訳としてご報告していく予定です。

3 非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科の認定について

以下の施設が新たに非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科として認定されました。これまでに認定された施設は 33 施設です。新規認定施設については、当財団ホームページ＞患者さんへ＞移植認定病院およびドナー登録されている方へ＞面談施設一覧でもご覧いただけます。

◆非血縁者間末梢血幹細胞採取・移植施設： 公立大学法人和歌山県立医科大学附属病院



4 急性白血病治療後の生活の質に関する横断的研究のお知らせ

現在、急性白血病で治療を受けられた患者さんに対して、治療後の生活の質（Quality of Life：QOL）の調査・研究が行われています。この研究は、治療後の患者さんの状況を医療者側、患者側で共有し、治療の一環として患者さんへのサポート体制を整えることや、将来治療を受ける患者さんへの治療選択の重要な情報源とすることなどを目的に進められています。現在までに 400 人近くの患者さん（治療経験者）から参加希望があるとのことですが、さらに多くの治療経験者にこの研究をお知らせしたいと、研究者から財団に協力依頼がありましたのでご案内申し上げます。詳細は別紙「急性白血病治療後の生活の質に関する横断的研究のお知らせ」をご参照ください。

5 平成 24 年度「骨髄バンク推進全国大会」の開催について

次回の「骨髄バンク推進全国大会」を平成 24 年 9 月 15 日（土）宮城県仙台市の太白区文化センター「楽楽楽（ららら）ホール」にて開催いたします。太白区文化センターは JR 長町駅（仙台駅より 4 分）から徒歩 3 分、地下鉄長町駅（同 8 分）に直結する利便性の高い大型複合施設で、「楽楽楽（ららら）ホール」は 734 名もの収容能力を有する市営の文化施設です。

設立 21 年目の新たな一歩となる全国大会が、着実に復興への歩みを進める東北地方の方々に応援の一助となれるよう、入念な準備を進めて参りたいと思います。

6 「CN（クラブネッツ）ポイント」による募金がスタート

1 月 16 日より、株式会社クラブネッツ（東京都渋谷区）の会員サイトで、当財団へのポイント募金が始まりました。CN（クラブネッツ）ポイントとは、全国 8,000 店の加盟店を利用するたびにポイントが貯まる無料の会員制サービスで、貯まったポイントは商品や各種提携ポイントに交換することができます。この制度を利用して震災被害者や各種支援団体への寄付を募るページが作成され、当財団も支援先のひとつに選ばれました。「CN ポータル」<http://www.clubnets.co.jp/donations>

7 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定	
常任理事会	公開・一部非公開	3 月 8 日（木） 17:30～	廣瀬第 1 ビル 2 階会議室
データ・試料管理委員会	公開	3 月 11 日（日） 15:00～16:30	廣瀬第 1 ビル 2 階会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

8 DLI のドナー年齢基準の見直しについて

DLI（ドナーリンパ球輸注）のドナー年齢の基準はこれまで 20 歳から 54 歳までとされてきました。

これまで 55 歳以上のドナーの方に DLI が依頼された例はありませんが、現在は骨髄、PBSCT とともにドナーの提供時の年齢上限は 55 歳までとされていることから、DLI ドナー年齢基準についてドナー安全委員会および常任理事会で検討されました。検討の結果、患者さんからの DLI 依頼は約 94% が造血幹細胞移植後 2 年以内であることを踏まえて、ドナーの安全の観点から、「DLI ドナー年齢上限は男女とも 57 歳とする」こととされました。

9 最終同意書の改訂予定について（調整医師、採取責任医師、コーディネーターの方々へ）

倫理委員会および常任理事会の審議により、「骨髄提供に関する同意書」および「末梢血幹細胞提供に関する同意書」（最終同意書）を改訂することとなりました。公益財団法人に移行する4月1日の最終同意面談から、改訂版の最終同意書をご使用いただく予定で準備を進めています。変更箇所や切り替えに関する運用の詳細は、来月のマンスリーJMDPにてご案内します。

10 「骨髄または末梢血幹細胞提供者となられる方へのご説明書」および資料等の検討について

非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取の導入に伴い、これまで以上に確認検査面談に時間を費やしています。また、面談時に使用する「ご説明書」に関して、ページ数が増加され文字が多くわかりにくいなどのご意見をいただいております。

この問題を解消するための一案として、PBSCTを含むコーディネートを担当した近畿地区の調整医師から、「ご説明書」の内容について視覚的にわかりやすい資料が必要ではないかのご意見と具体的な資料をご提案いただきました。そこで近畿地区では、コーディネーションスタッフを中心に検討して修正を加え、PBSCTを含むコーディネートの確認検査・最終同意面談時に、この資料と「ご説明書」を試行的に併用し、検証することとしました。また、現在、骨髄のみと、PBSCTを含む場合で2種類の「ご説明書」を使い分けていますが、本年6月頃からはいずれのコーディネートでも「骨髄または末梢血幹細胞提供者となられる方へのご説明書」（青の冊子）に一本化する予定です。

ドナーコーディネート部では、次年度の「ご説明書」改訂に向けて今後の状況を確認し、各地区のみなさまのご意見等も伺ってまいりたいと考えています。

11 確認検査の採血管について（調整医師の方へ）

調整医師である先生から、「確認検査の採血管（ニプロ社製品）に後方針を刺すと採血管が固定されずに跳ね返ってしまう。非常に固定しにくく、抜けやすいように思う。ぜひ改善して欲しい。」のご意見をいただきました。ご意見をいただいた先生、ニプロ社、エスアールエル社で調査、検討した結果、「採血ホルダーとの相性によっては、スピッツが固定されずに跳ね返ってしまう場合がある」ことがわかりました。そこで、このたびニプロ社から別紙の「弊社真空採血管と他社採血ホルダーとの組み合わせについて」の説明書が提示されました。調整医師の先生方におかれましては、別紙をお読みいただき、確認検査の採血時には下記の点についてご留意いただきますようお願いいたします。「採血管と採血ホルダーとの相性によっては、採血管が固定されずに跳ね返ってしまう場合があるので、採血管を刺入した後はしっかりと採血管を固定するようお願いします」

なお、採血管の変更等についてエスアールエル社で検討した結果、下記の回答がありましたので合わせてお知らせします。

○アルミシールの採血管があるが、万一アルミがはがれた場合、元に戻せないため運搬ができなくなります。骨髄バンクのドナーに再度採血を依頼することは困難であるので、ゴムキャップの採血管を使用しています。



○ニプロ社に限らずホルダーや針はエスアールエルでは提供していません。在庫管理や廃棄の問題があるため、エスアールエルからホルダーや針の提供は現状では困難です。

- 別添：「弊社真空採血管と他社採血ホルダーとの組み合わせについて」
(コーディネーターの方へは参考までに送付します。)

12 骨髄バンクドナーに対する麻酔管理について<日本麻酔科学会：2011年11月改訂>

(骨髄採取施設の医師の方へ)

財団では、2011年4月に骨髄採取マニュアルの改訂を行い第四版を発行しました。この骨髄採取マニュアル第四版の15～16頁に掲載している日本麻酔科学会の指針『骨髄バンクドナーに対する麻酔管理について』が2011年11月に改訂されましたので、お知らせします。内容については同封資料『骨髄バンクドナーに対する麻酔管理について』をご参照ください。

主な変更点は、以下の3点です。

- ① 次の一文が削除されました。(骨髄採取マニュアル 第四版 P15)

・(8) 脂肪塞栓対策としてヘパリンの静脈内投与が骨髄採取前に行われる傾向にある。

- ② 記載内容が変更されました。(骨髄採取マニュアル 第四版 P15)

旧：2) 指針に定める麻酔担当医としては、(社)日本麻酔科学会麻酔指導医(日本医師会、日本医学会、専門医認定協議会の三者承認専門医)が最善である。厚生労働大臣認可の麻酔科標榜医が担当する場合でも麻酔指導医がスーパーバイズすることが望ましい。

↓

新：(2) 骨髄移植推進財団の骨髄採取マニュアルに定める麻酔担当医としては、(公社)日本麻酔科学会が認定する麻酔科専門医・指導医が最善である。厚生労働大臣認可の麻酔科標榜医が担当する場合でも麻酔科専門医・指導医が監督・指導することが望ましい。

- ③ 記載内容が変更されました。(骨髄採取マニュアル 第四版 P16)

旧：これらの諸条件を考慮して、骨髄バンクドナーに対する麻酔管理は、(社)日本麻酔科学会麻酔指導医の監視のもとで施行することを条件として、全身麻酔あるいは局所麻酔(脊椎麻酔、硬膜外麻酔など)などの具体的な麻酔方法については、担当する麻酔科医の判断のもとで行うことを推奨する。

↓

新：これらの諸条件を考慮して、骨髄バンクドナーに対する麻酔管理は、(公社)日本麻酔科学会が認定する麻酔科専門医・指導医の監視のもとで施行することを条件として、全身麻酔あるいは区分麻酔(脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔など)などの具体的な麻酔方法については、担当する麻酔科医の判断のもとで行うべきである。

13 連絡事項

◆平成24年度調整医師委嘱更新手続きについて(調整医師の方へ)

平成24年度の委嘱に関する書類をお送りしました。お手数ですがお手続きのうえ、施設長の承諾書を2月29日(水)までにドナーコーディネート部までご返送くださいますようお願いいたします(業務委託施設の場合は連絡票のみご返送ください)。

※ご不明な点がございましたら、ドナーコーディネート部までお問い合わせください。

(TEL 03-5280-2200)

急性白血病治療後の生活の質に関する横断的研究のお知らせ

国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍・造血幹細胞移植科 黒澤彩子

このたび平成 23 年 8 月より、がん研究開発費福田班「成人難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植療法の治療成績向上につながる基盤整備のための多施設共同研究」の一研究として、急性骨髄性白血病、および急性リンパ性白血病の治療後の生活の質 (quality of life: QOL) を調査する研究を開始しております。

急性白血病に対する治療後の QOL の変化や社会生活の変化については、医師が移植後の QOL を評価した研究はいくつかありますが、患者さん自身が治療後の QOL 評価を行ったデータは国内外でもまだ非常に少ない状況です。“疾患は治癒したけれど生活は100%もとには戻っていない”という状況がどれくらいあるのか、またどのような変化があり、どのようなことで患者さんが困っていらっしゃるのかを調査したいと以前より考えておりましたが、現在、患者会などを通して日本全国の急性白血病の患者さんに参加を呼び掛け始めております。

さらに多くの患者さんにこの研究について知っていただくために、全国の血液内科の先生方からも急性白血病の治療を経験された患者さん、もと患者さんへ、この研究についてお知らせいただけないかと思い、このたび本誌にスペースを頂くことをご許可いただきました。

対象は

- ◎急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病と診断され、治療を受けた方
 - ◎現在20歳以上（治療時年齢の下限、また現在の年齢上限はありません）
 - ◎入院中ではない
 - ◎化学療法のみで治療を受けた患者さん、または移植を受けた患者さん
- です。

この研究では先生方にご調査をいただくことは一切ありません。また、この研究は疫学研究に関する倫理指針に則った形で国立がん研究センターの倫理審査委員会にて承認されており、各ご施設での倫理審査は不要です。患者さんにこの研究を知っていただくためにパンフレットをお渡しいただき、研究事務局あてにご連絡をいただいた患者さんへ改めて正式な説明同意文書とアンケート一式を事務局よりお送りするという流れになります。

研究にご協力をいただけます先生方は、下記の福田または黒澤までご連絡をいただけますと幸いです。案内パンフレットの送付、また研究の詳細をご案内させていただきます。よろしくごお願い申し上げます。

国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科 Tel: 03-3542-2511

福田 隆浩 (tafukuda@ncc.go.jp)

黒澤 彩子 (skurosaw@ncc.go.jp)

当科ホームページでもこの研究について紹介しております ↓

http://www.ncc.go.jp/jp/ncch/clinic/stem_cell_transplantation_02.html